

暴風及び大雨に対する農作物等の技術対策について

令和3年10月25日
農林水産部担い手支援課

令和3年10月25日6時32分 銚子地方气象台発表によれば、千葉県では26日明け方から昼過ぎにかけて、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる見込みです。

事後対策等の作業は風雨がおさまってから行います。特に、水路や傾斜地においては洪水や土砂崩れのおそれがあるため、十分に注意しましょう。

豪雨等の異常出水時においては、農作業及び農地・農業用施設の見回りは気象情報を十分に確認し、これらの状況が収まるまでは行わないなど、人命を最優先に二次災害の防止を徹底するようお願いいたします。

1 園芸共通

<事前対策>

- (1) 施設やほ場周囲の排水溝を整備し、雨水の流入、浸入を防ぐ。
- (2) ハウスの入口周辺に土のう等を設置し、雨水の浸入を防ぐ。
- (3) 養液栽培においては、養液タンクへの雨水の流入を防ぐ。
- (4) ビニールハウスは、外周を見回り、押えのバンドでフィルムをしっかりとめ、出入口等は閉めて固定する。できれば風当たりが強い外側の棟などを補強する。また、被覆資材に損傷箇所があれば、直ちに補修する。また、状況によっては、ビニールを切り離し、施設の損傷を少なくする。
- (5) ガラスハウスは、窓、出入口を閉めて、固定する。
- (6) ビニールハウス・ガラスハウスのいずれも、ハウスの周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。
- (7) 支柱栽培のものは、支柱の補強結束等を行い、倒状を防止する。

※事前対策には「千葉県農業用ハウス災害被害防止チェックシート集」の活用が有効です。チェックシート集は千葉県のホームページで閲覧・ダウンロードできます。



▲閲覧・ダウンロードが可能

<事後対策>

- (1) 施設及びその周囲、または、ほ場が湛水している場合は、速やかに排水溝を掘り、排水に努める。農作物が冠水・滞水している時間をできるだけ短くする。
- (2) 施設内に雨水が流入した場合は、できるだけ速やかに排水し、水が引いた後に、ベッドを整形するとともに中耕する。

- (3) 施設栽培では、施設内が多湿になり病害が発生しやすくなるため、天候の回復後、ハウスを開放するなどして湿度を下げ、作物に適した環境に保つ。
- (4) 栽培中の作物では、土壌の表面が乾いてきたら、追肥用化成などを用いて追肥を行い、軽く中耕を行うことにより生育の回復を促す。
- (5) 施設が破損した場合は、速やかに補修を行う。
- (6) 降雨後に潮風の当たった地域では、可能な限り速やかに大量の散水を行い、茎葉に付着した塩分を洗い流す。
- (7) 風害等により草勢が弱った場合には液肥の葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- (8) 風による擦れや多湿等により病害が発生しやすくなるため、防除指針に従い殺菌剤を散布し病気の予防に努める。なお、根の活性が低下するなど、薬害が発生しやすい状態にあるので注意する。

2 施設野菜

<事後対策>

- (1) 風雨のあとは特に病害の発生に注意し、薬剤散布を行う。
- (2) 発生が予想される病害
 - ア イチゴ 炭疽病等
 - イ トマト すすかび病、葉かび病、疫病、灰色かび病等
 - ウ キュウリ ベと病等
 - エ インゲン 菌核病、灰色かび病等

3 露地野菜

<事前対策>

- (1) 排水性の悪いほ場では、表面の排水溝や暗渠排水溝を点検し、速やかに排水できるよう備える。
- (2) 茎葉被害が予想される野菜では、通気性の良い寒冷紗や不織布をべたがけする。
- (3) ネギなど倒伏により、大きな減収や品質低下が予想される野菜では、防風ネットの展張や、土寄せするなど倒伏防止を図る。

<事後対策>

- (1) 葉茎菜類で倒伏した場合は、丁寧に起こした後、窒素成分で10a当たり3kg程度の追肥を行う。
- (2) 品目毎の対策（主なもの）は以下の内容を留意する。
 - ア キャベツ
 - ・生育の回復が見込める場合は、早めに追肥し、外葉を傷めない大きさであれば、中耕する。

- ・植え直す場合は、「金系 201 号」、「波ひかり」等の品種をすみやかに播種し、育苗床はビニルトンネルで被覆する。地域にもよるが、11月5日頃までに播種すると、年内に定植でき、収穫は4月下旬以降が見込まれる。
- ・収穫時の労力配分を考慮し、計画的に播種・定植を行う。

イ ダイコン

- ・生育の回復が見込める場合は、早めに追肥・中耕を行う。状況に応じて、11月下旬頃からべたがけで生育を促進する。
- ・まき直す場合（トンネル栽培）は、残渣を圃場外に運び出し、ホウ素入りの基肥を補う。
- ・収穫時の労力配分を考慮し、計画的に播種・定植を行う。

(3) 発生が予想される病害

- | | | |
|---|------|-----------------|
| ア | キャベツ | べと病、黒腐病等 |
| イ | ダイコン | 黒腐病、黒斑細菌病等 |
| ウ | ネギ | べと病、黒斑病、小菌核腐敗病等 |
| エ | ニンジン | 黒葉枯病等 |
| オ | 葉菜類 | べと病等 |
| カ | 共通 | 細菌性病害 |

4 果樹

<事前・事後対策>

(1) イチジク

- ア 所々に支柱を立て、側枝の誘引を行う。
- イ 水田等排水の悪い園では、滞水しないよう排水溝を整備する。

(2) キウイフルーツ

- ア 葉の損傷の激しい園では、殺菌剤を散布し、病害感染を防ぐ。

(3) ナシ等棚仕立ての樹種

- ア 多目的防災網を設置してある園では、押さえ紐や控え紐（網が風で飛ばされないように、所々に網から引いてある紐）の補強を行う。
- イ 防風垣、防風網の補強整備をする。
- ウ 排水の悪い園では、滞水しないよう排水溝を整備する。

(4) 立ち木仕立ての樹種

- ア 主幹には三方から支柱を取り付ける。温州ミカン、レモンでは、果実が大きくなり下がってきている枝に支柱を取り付ける。

5 花き

<事前対策>

- (1) 圃場周囲に明きよを設置するなど、冠水しないよう排水性を高める。

- (2) 支柱を追加し、フラワーネットの点検・補強を行う。
- (3) 小ぎくなど、茎葉の被害により大きな減収や品質低下が予想される花きでは、防風ネットを張る。
- (4) 風潮害が予想される場合は、べたがけ資材等の被覆を行う。

<事後対策>

- (1) 風雨により折れた枝や株は整理し、倒伏した切り花類は枝の曲がらないうちに無理のない範囲で早く立て直し土寄せをする。
- (2) ほ場の速やかな排水に努める。なお、数時間滞水した苗物や鉢物は、その後乾燥ぎみに管理する。
- (3) 育苗中のものや移植、定植直後のもので冠水被害を受け、回復の見込みがない場合は、除去し、苗があれば定植し直すか再度播種準備を行う。
- (4) 風害により草勢が弱った場合には液肥の葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- (5) 風雨のあとは特に病害の発生に注意し、薬剤散布を行う。根が傷んでいる場合もあるので薬害に注意する。

6 大豆

<事前対策>

排水溝を確実に排水路につなげる事や、畦畔を切る等で早急な排水対策を行う。